

令和元年度起業支援事業費補助金採択者で開業された方を訪問

3月23日（月）

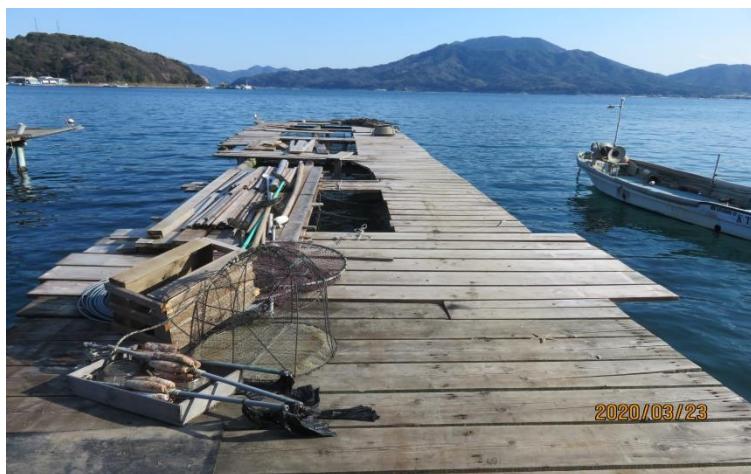
訪問して出迎えてくれたのは、ここ宮津市小田宿野で事業所兼お住まいとされ開業された小倉さん。

宮津市小田宿野は栗田（くんだ）湾に面しており、宮津の中心部から車で約20分のところにあります。ここから、真向かいに、海を挟んで関西電力の丹後魚つ知館（うおつちかん）が見えます。

この家を改装し1階を事業所に改装。



カーペットが敷かれた事務所には、机、パソコンが3人分あり、従業員が2人おられるとのことです。本日は、小倉さんの出勤のみ。パソコンの画面には、栗田湾が映っています。事務所を出ると、すぐ桟橋があります。台風後、自前で修繕されたこと。



(起業しようと思った動機)

宮津地域で何かしたいと思っており、漁業とITを結びつけて何かできないかと考えていました。京都市内で通信業をしておりましたが、廃業し、宮津で開業しようと思っていたときに、親戚に、商工会議所の方があり、その方から起業に関する補助金があると聞き応募しました。

宮津地域も、漁業従事者が高齢化のうえ若年層が減っており、また、栗田湾の海産物も乱獲の影響で減ってきて、漁業の省力化や養殖、漁場の乱獲防止に資する取組ができるかと考えてきました。

現在は、ブイにカメラを取り付けて栗田湾に浮かせて、WI-FIの電波なら2km届くので、それを使って海の魚の様子を撮影するなど効率的な養殖等のためのスマートブイ※の研究をされているとのことです。

※ センサーや通信機能を搭載したブイで、漁獲量や水温等の漁場の状況などをリアルタイムで遠隔で把握できるシステム

この研究には、令和2年度の京都府の水産関係の補助金が交付される予定で、京都府水産研究所の支援を得ながら進めることができるようになったとのことです。現在は、塩分濃度や温度を計測する機器をブイにつけてパソコンで常時計測できるようにしております。

この研究がまだ実用化されていないため、当面は、ビルや工場等の電気通信や空調等のITやIoTを活用した建物の管理システムをコンサルティングした上の工事、また、「5G」インフラのため、電柱にアンテナの設置等の工事を請負っていくとのことです。

(今後の抱負)

地元の海洋高校と連携し、IT・IoTを活かした養殖、無人による漁場の海底の沈殿物をかき混ぜ、プランクトンの発生しやすい環境づくりを行うなど、効率的な漁業のための事業を行っていきたいと思います。ただ、漁場の海底をかきまぜるのは魚を傷めないかという意見もあり、他の方法含めて、今後の検討課題かと考えております。

また、宮津地域で、「5G」インフラ事業が通信会社で実施されれば、その工事を是非、請負っていきたいと思っております。